



こくろうよなご

第2号

2024年9月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

キャリアの継続・活躍！制度は変われど！

9月13日、「2024年労働協約の改定について」西日本会社より回答がありました。

改定の趣旨として「多様な人材がより柔軟な働き方を通じて、キャリアの継続や活躍できる基盤を整備することを主眼とし」「具体的には、社員のチャレンジ精神を後押しする制度や、育児・介護等を抱える社員が様々な制約の下でも成長し活躍できる制度を導入する」として、項目別では、1. 育児・介護等に関わる制度の見直し9項目、2. フレックスタイム制度の見直しについて3項目、3. その他勤務制度の見直しについて3項目、4. 社員向け情報共有ツールアプリの導入についてでした。

会社も言う通り、確かに育児・介護への対応を中心に、制度は拡充されていますが、内容を吟味すると来年202

5年7月に改正される「育児・介護休業法」を先取りしたものが目につきます。もちろん法改正の先取りも大事な事であると考えますが、肝心なことは新採者の年休増など含めて、気兼ねなく制度が活用できる充分な要員が配置されているとは言い難いことにあります。また、育児・介護の制度の活用により収入が大きく落ち込むようであれば、どうしても使用を躊躇うようになるのではないのでしょうか。

そう考えるとキャリアの継続や活躍には、何らかの経済的な支援も必要ではないかとも思います。

国労西日本本部は、今回の回答について9月16日開催の執行委員会にて、「一定要求の前進もあった」として妥結の判断をしています。引き続き、職場改善に向け奮闘していこうではありませんか。

清水 勝 大田市議が死去

9月12日、長年国労議員団として活躍頂いた清水勝大田市議会議員がお亡くなりになりました。享年82歳

清水市議の経歴や人柄については、今更言うまでもありませんが、お年寄り・障害をお持ち

ちの方々、女性・子供・そして、勤労者など社会的に弱い立場の方々を守るために、まさに身体を張って活動をされてきました。そして、私たち国鉄労働組合の活動に対し

でも、わが身のごとくご協力を頂きました。生前のご活躍に、改めて心からの敬意と御礼を申し上げます。次第で。本当に、ありがとうございます。安らかに眠り下さい。

辺野古が出来ても普天間は返還しない

8月24日、米子文化ホールにて、国鉄労働会館主催の労働講座を開催しました。今回は、「沖縄レポート」（沖縄の現状を語る）という演題で、沖縄平和センターの岸本事務局長より講演を頂きました。当日は、国労組合員に加え、多くの共闘組織の仲間の参加もあり、「沖縄の現状」を考える良い機会となりました。

理不尽極まりない

講演では4つのテーマに分けて、お話を頂きました。

1点目は、南西諸島で展開されるミサイル配備の現状を取り上げ、「軍事要塞化」が進められていると言われていました。有事を想定した避難訓練なども行われていたようですが、住民の方からは「疎開と何が違うのか」など怒りと懸念の声が聞かれています。

民の皆さんの苦悩が伝わってきました。2点目は、米軍による環境汚染・環境破壊についてです。2021年に「世界自然遺産」に登録されるほど、自然豊かな沖縄ですが、一方で、米軍基地で使用されている泡消火剤に含まれる有機フッ素化合物による汚染は深刻な問題となつています。がんや心疾患の原因ともなり、アメリカでは規制をされているものが、沖縄では放置をされているというこ

とです。日本とアメリカで結ぶ日米地位協定では「米軍は返還基地を原

地方自治の否定

3点目は、那覇から浦添地区に移設計画のある新軍港建設についても、自然環境を著しく破壊するものだと

わかっていました。4点目は、辺野古新基地建設についてです。住民投票による圧倒的な建設反対の声を押し切り建設が強行されています。

これは、単に沖縄だけの問題ではなく、「地方の事は、地方で決める」という地方自治そのものを否定する行為であり、許されるものではありません。

また、辺野古新基地建設予定地の軟弱地盤については、これまで

が持ち込まれたことも、常に戦争の矢面に立たされ続ける中での、住

ぶ日米地位協定では「米軍は返還基地を原

また、辺野古新基地建設予定地の軟弱地盤については、これまで

また、辺野古新基地建設予定地の軟弱地盤については、これまで

